

米山奨学委員会 大学/地区意見交換会

米山奨学委員会 委員

古城 紀雄 (千里RC)

日時:2012年7月23日(月)14:30~16:30

会場:ガバナー事務所

参加者:田中真人委員長、吉田悦治副委員長、西谷雅之副委員長、福田治夫、
近藤菜穂子、田中隆弥、島井宏子、樋口一夫、古城紀雄各委員

参加大学等:追手門大学、大阪大学、大阪教育大学、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、
大阪市立大学、大阪成蹊大学、大阪電気通信大学、関西大学、関西医科大学、関西外国語大学、
近畿大学、摂南大学、梅花女子大学、相愛大学、(独)日本学生支援機構 大阪日本語教育センター、
大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校



7月23日、地区米山奨学委員会と大学等との地区懇談会がガバナー事務所会議室で行われ、2012年度の米山奨学生を選考するにあたり、22の指定校の担当者にご出席いただきました。

吉田副委員長の司会のもと、まず田中委員長が挨拶され、ロータリー米山記念奨学事業の歴史的流れに触れながら、(1) ロータリークラブの基本的精神とは何か、(2) 同米山記念事業の目指すもの、及び(3) 奨学生の推薦・専攻にかかる本年度よりの新たな方針についての見解を簡潔かつ明瞭に述べられました。ここでは、「日本ファン」を増やし「将来ロータリアンとともに平和社会の構築・推進に貢献できる人材の育成」に心したプログラムであることが強調され、また「優秀な奨学生の推薦はロータリアンの中で米山奨学事業ファンを増やす事にも繋がります。このファンも増やしてより多くの奨学生を担当できるように、共に手を取り合ってこの事業を推進していきましょう」と呼びかけられました。

ついで、大学間同士の意見交換も兼ねて「各機関がどのような選考基準とプロセスで本奨学生の推薦を

行っているか」についてすべての参加機関からの報告を受けました。その結果、ほとんどの機関で「ロータリー精神の理解の徹底と各種行事への積極的参加意欲の確認」を経て推薦者を決定されていることがわかり、本奨学事業の趣旨が理解された形で応募されている現状が明らかとなりました。一方で、少数ながら当該年度に支給される他の奨学金募集と同時に本奨学生の募集を行っている機関があり、委員長などから「本奨学事業は(今年度ではなく)次年度向けの募集であり、混同しない形での募集・選考を実施していただきたい」旨の見解が示されました。

また、上述の「本年度募集からの新たな方針」として、「本奨学生の選考にあたっては、当地区のロータリアンのさらなる国際性の涵養に有効に資する人材を採択するという視点に立って、以前より増して多様な国籍をもつ者を選考する」との意向が伝えられましたが、そのことについての質疑応答を経て、参加各機関におかれてはこの新方針のもとで、「半数以上が同国籍とならないように適切に推薦していただく」流れを理解していただきました。

なお、本奨学事業では「世話クラブ+カウンセラー制度」を機能させて、生活困窮者支援というより「ロータリー精神の普及と日本ファンの増強」に力点を置いた運営がなされていますが、最近採用奨学生を出した機関から「ロータリアンからの様々な支援」に他のプログラムにはない「きめ細かな対応に奨学生が大変感謝している」旨の報告もあり同慶の至りではありました。最後に西谷副委員長が挨拶し、大学等と地区米山奨学委員会がさらに連携・協働してゆくことを約し、散会しました。

